



### EU離脱で大揺れの英国

「民主主義はひどい制度だ。それでも社会主義や絶対君主制など他の制度よりはましだ」。英国の政治家のウィンストン・チャーチルがこのような指摘をしている。なかなか含蓄の深い言葉だ。

英国のEUからの離脱、いわゆるBrexit（ブレイグジット、造語）で、英国が大きく揺れている。英国だけではない。合意なき離脱という混乱が起きるようなことがあれば、欧州全体、あるいは世界経済にも混乱の影響が及びかねない。グローバル企業はそうした混乱に対応できるように準備を

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

進めている。英国のロンドンから拠点を欧州大陸の方に移した企業もある。

そもそもBrexitの混乱は、英国の当時のキャメロン政権がその是非を問う国民投票をしたことから始まった。国民に意見を求めるというのはよいとしても、またBrexitの内容や影響が

### 民主主義と民衆の分断

よくわからない段階で、多数決で方向を決めるといふのはいかにも乱暴な手法である。当時はわからないままに投票したとか、あるいは投票をしなかった人の中には、もしも一度国民投票があれば、離脱反対に投票するという人も多いようだ。いずれにしても、あの時点で国民投票をしたのは間違い

だったという専門家は多い。国民投票によって起きたことは、国民の意見の分断である。離脱の賛否を巡って意見の対立が顕在化している。離脱にイエスかノーかという単純な意見を求めれば、国民の意見の二分化を促すことになる。さまざまな意見の違いを容認するからこそ社会の多様性

と安定が維持できるのであって、一つの意見に賛成できないものは排除するというのでは分断を促進するだけである。

米国でもこうした国民の分断の徴候が見られる。トランプ大統領は、徹底した保護主義と自国優先主義で、これまでの大統領に見られないような独自路線を突き進ん

でいる。その主張はトランプ大統領の支持層から強い支持を得ている。非常識と思われるような行動をとっているように見えても、依然としてそれなりの支持率を確保している。

#### 極端政策の米大統領候補

こうしたトランプ大統領を支持しない人たちは、それは逆に徹底的にトランプ政権の政策を非難している。その結果として、民主党の大統領候補に出てきている人の中にはトランプ大統領とは対極に位置するような極端な政策を打ち出す候補が多い。極端な姿勢の大統領候補者が多く、中道の立場に立った候補が出てこない。元々、共和党と民主党という2大政党の支持者で分断される傾向の強かった米国であるが、その分断

化がますます進んでいるようでもある。Brexitの話に戻そう。国民投票が失敗だったと今さら嘆いても仕方ない。かりに再度の国民投票を行うことになっても、民衆の分断がなくなるわけではない。重要なことは、Brexitによる大きな混乱を避けるために、英国の政治に何ができるのかということだ。

英国のメイ首相は与野党との政治的な合意をまとめることに苦労しているようだが、もし政治的な合意ができなければ大変なことになる。これまでのところ、株式や外国為替などの市場は安定している。いずれは政治がこの問題を解決してくれると、市場は楽観的に見ているようだ。市場の読みが正しいことを願いたい。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。